

Top Message	環境・CSR本部長メッセージ	特集1 中長期環境ビジョン	特集2 Digital Co-creation	第8期富士通グループ 環境行動計画	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
-------------	----------------	------------------	----------------------------	----------------------	---------------------	-----------------------	----------	------

事業所における温室効果ガス(GHG)排出量の削減・エネルギー消費原単位の改善	データセンターのPUE(電力使用効率)改善	再生可能エネルギーの利用拡大	サプライチェーンにおけるCO ₂ 排出量削減の推進	輸送におけるCO ₂ 排出量削減	水使用量の削減	化学物質排出量の抑制	廃棄物発生量の抑制
--	-----------------------	----------------	--------------------------------------	-----------------------------	---------	------------	-----------

再生可能エネルギーの利用拡大

富士通グループのアプローチ

社会における再生可能エネルギーの普及拡大は、地球温暖化対策、エネルギー源多様化による安定供給の確保、エネルギーを基軸とした経済成長などの観点から、より一層重要となっています。

富士通グループでは、脱炭素化社会の実現に向けて環境ビジョンを制定し、省エネの徹底に加え再生可能エネルギーの積極的な導入を大きな柱としています。これを受けて環境行動計画では新たに定量目標を設定し太陽光発電設備の自社事業所への導入設置や、特にコストが見合う海外の事業所におけるグリーン電力(100%再生可能エネルギーで発電された電力)の購入・利用拡大を積極的に推進しています。

2016年度の実績サマリー

第8期環境行動計画の目標 (2018年度末まで)	再生可能エネルギーの利用割合を 6% 以上に拡大する。
2016年度目標	再生可能エネルギーの利用割合を 5.5% 以上に拡大する。
2016年度実績	再生可能エネルギーの利用割合 5.2%

2016年度の実績・成果

「利用割合6%以上」の目標を新たに設定

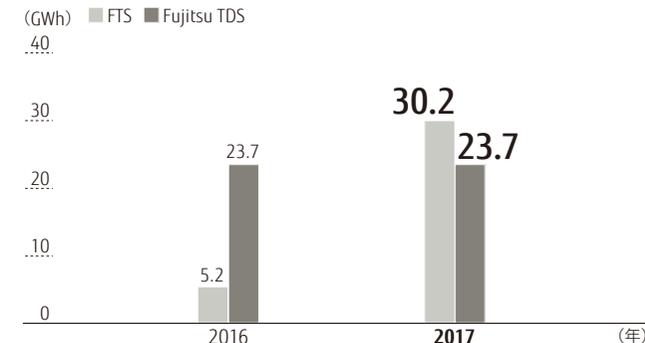
当初、第8期環境行動計画では再生可能エネルギーの利用に関する数値目標を設定していませんでしたが、グリーン電力の調達が可能となる海外地域を中心に、積極的な購入・利用拡大を図るため、「利用割合6%以上」の目標を新たに設定しました。さらなる購入・利用拡大に向けて、2013年度に作成した「導入ガイドライン」や「最適導入マップ・発電量予測ツール」を活用し、事業所への導入検討を推進しています。

2016年度の再生可能エネルギーの利用量は約133GWhで、全体の電力使用量に占める割合は5.2%となりました。



Fujitsu Technology Solutions (FTS) のグリーン電力証書

FTSグループのグリーン電力年間契約量推移



TOPICS 今後の再生可能エネルギー利用拡大に向けた取り組み

近年の電力分野の技術革新は目覚ましく、太陽光パネル、風力タービン、蓄電池の低コスト化が、再生可能エネルギーの利用を大きく後押ししています。特に海外ではすでに60%以上の電力を再生可能エネルギーで供給している地域も存在します。

今後、富士通では、再生可能エネルギーの調達が容易な海外事業所から積極的に利用拡大を図っていきます。また、再生可能エネルギーの利用効率を上げるため、エネルギーの地域連携効果を確認するためのシミュレータ開発や蓄電池の高効率充放電制御の研究に取り組んでいきます。